

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 中間評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	神埼市立脊振小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・小中共通の研究主題を設定し、9年間の成長を見据えた学力向上を目指した。来年度も小中合同の交流活動、交流授業を充実させるとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業実践に取り組んでいきたい。 ・児童が落ち着いて行動したり、友だちと助け合って生活したりすることができていた。引き続き、安心して学校生活を送ることができるような、支持的でお互いを大切に作る風土作りを推進したい。 ・コロナ禍でも方策を探り、地域・社会と連携した体験活動を行うことができた。故郷を大切に、生き方を再考する機会を引き続き持たせ、自ら考えて行動する児童を育成したい。
2 学校教育目標	脊振を愛し 進んで学ぶ たくましい子どもの育成
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①安心して学べる場を確保し、子ども・保護者・地域から信頼される学校をつくる。 ②教職員の意識改革と効率的な自己研鑽を推進し、指導力と人間性の向上を図る。 ③「知、徳、体」の調和のとれた生き抜く力を備えた子どもを育成する。

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 (校内研・授業改善・読書の習慣化)	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教職員90%以上	●教師の技により主体的・対話的な学びの場を充実させ、児童の学びの深まりを図る。 ●児童による授業の評価(アンケート)を取り入れ、授業改善に生かす。	A	●学校評価アンケートにおいて「教材研究を十分にしている今年度の研究内容を意識した授業に取り組んでいる」教師の割合が、90%以上である。主体的・対話的な学びの場を設けた授業を心がけている教師が多い。 ●学力向上対策評価シートを活用し、夏季休業中の学力向上対策会議により共通実践ができている。 ●「学校の勉強を分かりやすく教えてくれる」の学校評価児童アンケートの割合が90%以上である。 ●貸し出し冊数には、個人差はあるが、おすすめ30冊は50%のクリア。図書館月間で冊数のすすめの掛けをしていきたい。				
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○神埼市の「四か条の誓い」や脊振小の「石の門の教え」をもとに、感謝の気持ちや礼儀正しさ、思いやりの気持ち等を育むために、教育活動全体を通して繰り返し指導し、90%の児童が生活の中で意識して実践できるようにする。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	●人権集会の実施 ●全校で「ほかほか広場」(友達の良い行動の紹介)に1年間通して取り組み、定期的に人権担当からカードを紹介する時間を設け、友達の良さ見つけへの意識を高めている。 ●「特別の教科 道徳」についての校内研修等を行う。	A	●学校評価アンケートにおいて、感謝の気持ちや礼儀を意識して生活できていると肯定的な回答した児童が100%。 ●児童が「ほかほかカード」に書いた友達のよさを人権担当が放送で紹介したことにより、お互いの良さを見つけようという意識を高めることができた。 ●児童の実態に合わせて、道徳の重点目標の見直しをしていく。			
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教職員90%以上	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	●日常の様子やアンケートからの情報をもとに毎月個人面談を行う。 ●児童から聞き取った情報は記録し、記録簿に綴る。 ●連絡会等で他職員と共通理解を図り、組織で対応する。	A	●日常の観察や毎月の児童アンケートからの情報をもとに、定期的に個人面談を行った。また、児童の様子について、情報共有の時間を設け、全職員が共通理解をした上で、児童の対応にあたることできた。生徒指導や保護者との連携において組織的にできていると肯定的な回答をした職員は100%であった。今後も早期発見・早期対応を心がけ、いじめ防止についての意識を高めていきたい。			
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間420分以上の児童60%以上 ②早寝早起き朝ごはんを意識し、毎食後に歯磨きをする児童70% ③「健康に良い食事をしている」児童70%以上 ④児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	●体育委員会を中心に、スポーツイベントを開催する。その際に、運動や遊びを推奨する声かけも行う。 ●児童の遊び場の環境整備や道具や器具の充実を図る。 ●朝の健康観察時に家での歯磨きチェックをする。 ●朝食摂取が健康につながっていることを指導し、児童の意識を高める。 ●避難訓練において、児童及び職員の動きの理解を図り、状況に応じた避難を実施させる。	A	●保健体育委員会を中心に、月に一度(げんきタイム)を全校で実施している。また、80%以上の児童が、休み時間を利用して外遊びを行うことができている。 ●毎朝、登校前の歯磨きチェックを行い、100%の児童が朝食後の歯磨きができていると回答している。 ●運動会前の保健指導で、朝食摂取の重要性を伝えるとともに、家庭の協力もあって、本校児童の熱中症発生はなかった。 ●避難訓練時以外でも、学期初めの職員の交通指導や、下校時の交通安全についての指導などを、継続して行った。児童の交通事故は発生していない。				
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	●全体で定時退勤日を設定したり、職員一人ひとりが退勤予定時刻を決めて勤務にあたりたりすることで、タイムマネジメント力を高める。 ●業務内容について職員で話し合い、スリム化及び平準化を図る。	A	●4月～9月までの職員の時間外勤務平均は22.2時間で、前年度の同期間33.3時間と比較しても、効率的に勤務にあたりることが伺える。学校評価アンケート(職員)を見ても、100%の職員が勤務時間を意識して仕事に取り組んでいると答えている。学校行事の多い2学期において、職員の健康管理に気を配りながら、見直しをもって業務にあたらせるなど、職員のタイムマネジメント力が高めていきたい。			
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)							

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○地域連携教育の充実	○地域連携力の拡大	○地域の方々との交流活動についてのアンケートで肯定的回答が保護者90%以上	●ホームページのイベントギャラリーで地域連携教育活動の広報を月1回以上行い、チーム脊振の充実を図る。	A	●ホームページのイベントギャラリーで教育活動の広報を月2回程度行うことができた。学校評価アンケートにおいて、「地域や社会の人と一緒に体験する活動をしている」で、87.5%の保護者が肯定的な回答をしていた。				
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上(特別支援教育)	○特別支援に関する専門性が向上したとアンケートで回答した教職員90%以上	●特別支援に関する研修会の実施 ●医療機関と連携したケース会議の開催、情報共有	A	●講師を招いた校内研修と、特別支援教育コーディネーターによるミニ研修を1回ずつ実施した。 ●学校評価アンケートにおいて、100%の職員が特別支援教育について研修を深めることができたという回答をしていた。				

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
----------------	---